

漁民の森づくり

文化事業部

中山博典

私たち文化部は、
んぐりクラブは、
10月16日漁民の森
づくりに参加し、
植林をさせて頂き
ました。この日は
晴天に恵まれ、ど
んぐりクラブ約20
名が植林の仕方
や、大きく育った
木を切るなどのイ
ベントに参加し、
子どもたちにとっ
て楽しく勉強にな
る一日だったと思
います。



なぜ漁民の森づくりなの
か？地御前漁協組合長・峠
さんの話では、樹木の落ち
葉など自然の栄養分（ミネ
ラル）が川の流れによって
河口に運ばれ、湾や沿岸に
栄養分をもたらし、魚介類
の栄養素となるプランクト
ンが発生して、地御前ブラ
ンド牡蠣の味も濃く美味し
くなるとのこと。海を守る
ためには山を大切にす

とが大事だと言っておられ
ました。
樹木は、光合成によっ
て、大気中の二酸化炭素を
吸収し同時に酸素を発生す
る働きがあります。近年深
刻化している地球の温室効
果の原因の一つが二酸化炭
素という説もありますの
で、二酸化炭素の削減効果
が期待できる樹木は地球環
境のために必要になるでし
ょう。

地区の話題

第4回 地御前ウォークラリー

11月27日(土)に2年ぶり
に地御前ウォークラリーが
行われた。小学生を中心
約80名が参加した。児童た
ちだけでなく、自治会青少
年事業部員やお手伝いをし
て下さった保護者の皆さん
も皆のびのび参加している
様子が印象的だった。
低学年から高学年まで、
友達同士が思い思いにチー
ムを作って参加したので、
集まっただけでにぎやかな
状況になったが、いざ開会
式を始めると、誰も
無駄話をする子もお
らず、普段如何に小
学校での集団行動の
訓練が浸透できてい
るかを見て、とても
感心をした。

的当て、靴飛ば
し、クイズ、射的、
大歳神社おみくじ、
豆つかみなど、グラ
ンドや体育館を使っ
て行い、得点を競っ
た。活動の間、普段
はなかなか大人が子
どもに声をかけるこ
とも難しいご時世だが、大
人・子どもを問わず声をか
けると誰とも気さくに会
話を交わすことができた。
大人と子どもの距離が縮ま
る機会は地域としても
大切なことだと思ふ。
今年6年生の参加者が
多かった。中学生になっ
てみたいという感想も聞か
れたことは何より嬉しいこ
とだ。



これでも的が倒れないこともある。(笑)
そんな時でも戸倉PTA会長が巧みな話術で盛り上げた。

編集後記

★岸田新内閣の初国会では数々の議案が審議されている中、気掛かりな事がある。テレビに映り出される画面を通してであるが、岸防衛大臣の健康状態？杖を使っている答弁であり、滑舌も悪く、気力も感じられない。此の状態でもし国際危機が発生し、強豪国とのタフなディベートに耐え得るのか、懸念される。余人を以て代えがたい存在なのか？

とかく首相の任命責任が問われる世界、隊員の志気にも影響を及ぼすのでは。大臣の健康チェックは？と懸念される。これらが全て杞憂に終われば良いが。(Y・Y)

★最近何かとSDGsという単語を耳にする。持続可能な開発目標という意味だが、どのような取り組みにも本来ならば言わずとも含まれている要素であろう。わざわざ強調しなければならぬ原因に根本的な課題があると思ふ。(J・K)

★ご意見・ご感想・記事の投稿リクエストなど何でも募集します。
RXE15645@nifty.ne.jp

「発行」 地御前市民センター内
地御前地区自治会 広報事業部

じごぜんひろば

No.105 2022年(令和4年)1月1日

地御前地区自治会

新年あけまして
おめでとーございませう
皆様の健康と多幸をお祈り申し上げます
令和四年元旦
地御前地区自治会



令和3年もコロナ感染拡大防止のために大半の自治会活動が中止になった。感染拡大第5波が9月頃をピークに減少に向かう中、ようやく定例の活動を中心に徐々に活動が再開されていた。国内の緊急事態宣言は解除されたが、まだまだ海外では感染者数も多く、12月には海外からの外国人旅行者の全面シャットアウトが決定された。
今は国内での感染が落ち着きを見せているが、まだこれからもコロナ感染状況がどのようなようになってゆくかわからない。
令和2年から中止が続いていた宮島花火大会も昨年4月に今年以降の打ち切りが発表された。地域のお祭りや恒例行事が行えないことが続くこと、さまざまな地元の習慣・文化などの継承がとだえてしまう危惧さえある。
地域の人と人をつなぐ活動を通して、より住みよい地域づくりの一端を担う役割が地御前地区自治会にもある。そこで新年号では執行部役員や各部長から皆様へのご挨拶として地御前地区自治会との関わりや思いを掲載させて頂くこととした。



地御前地区自治会
会長 吉本 恒雄

1. 自治会活動に関わるようになったきっかけ

平成23年から縁あって地御前地区自主防災会に関わらせていただき、自主防災会の会長を務めさせていただいています。その関係で現在の自治会活動にも参画させていただいています。平成23年といえば、まさに東日本大震災が起きた年です。

今日では地震だけでなく集中豪雨による大規模災害も頻発しています。地域の安心・安全のために皆様のご協力をお願いいたします。

2. 自治会活動で「いいな」と感じていること。よいところ。

自治会執行部の皆さんはもちろんです。地域住民の方や市役所・学校・PTAなど関係団体の皆さんと顔見知りになれるところが「いいな」と感じています。

それによってさまざまな行事に参加する中で、地域の皆さんから気さくに声を掛けてもらっています。お互いに名前を声掛けができることは、とても素晴らしいことだと思っています。

3.自治会活動を通じて実現したいこと。
自治会会長の立場ではありませんが、皆さんと協力しワンチームで、地御前を盛り上げ、安心して暮らせる町にできたらと思っています。

4.自治会活動で記憶に残る思い出や経緯。
強いてあげれば、地区運動会の熱気に近い活気と、とんどの大きなかがり火です。

地御前地区自治会では、今年度、ホームページを立ち上げます。ホームページでは、高齢者見守り、地域活動の活性化、文化・歴史の記録、そして、子どもPR隊を作り、子ども目線で地御前を宣伝してもらい、地御前を好きになってもらう内容にしたいと考えています。皆様のご意見・ご協力をお願いいたします。

5.地御前への思いなど。

「わたくし生まれも育ちも地御前で・・・」地御前は、廿日市市の中でも文化・歴史のある町だと思っています。こうした伝統を引き継ぎ残していければと願っています。併せて地御前地区の子どもたちにも地御前を好きになってもらいたいと考えています。



地御前地区自治会
副会長
西田 弘展

1.参加のきっかけと想事。

最初に地御前地区コミュニティが発足した。

我が子がたしか小学校3年生の時に雨で地区運動会を体育館で行っていたときです。本部席がバタバタされていた思わず「何かお手伝いしましょうか?」から始まり、そのときの体育部長相良さんに誘われ体育部に席を置きながら会計、副会長。総務部長とお役を頂き令和4年度を迎えました。〇〇年!時の経つのは早いものです。今は孫たちが体育館を走り回っています。

記憶に残っていることで一番に思い出すのは、第36回地区運動会が感染症の伝染が恐れられ準備半ばで中止の決断をしたことです。歴史の重みをひしひしと感じ残念な思いをしたことです。ここへ来て又コロナで2年も開催できなく、いかに人とのつながりの深い事業だとつくづく感じております。企画から反省まで半年間を費やす事業なので私だけでなくスタッフみんな強い思いは感じていることでしょう。

体育部での絆は先輩方に支えられ私にとっては人生豊かに過ごせた宝物だと思っています。とても心地よい場所です。最後まで体育部員としては継続していこうと思っています。

今は総務部長も兼任していますが、地域とのパイプ役として携わり、これからの地御前発展に微力ながら関わらせていただければと思います。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。



これは、当時、組織され活動を続けているボランティアグループ等が集められた。「コミュニティとは何ぞや」、が参加の始め。準備の会は、組織の代表者、地元の名士で組織されており、担当の、青年会規約、組織案を夜遅くまで協議したことが思い出されます。その方々とは今でも、悪友として無理を言える関係が続いています。

今、その会は、後に、地御前地区自治会と改称され現在に至っています。思ふ事、枯れてきたものを、捨てないで使うことにSDGsを見出した。はじめに枯れてきたものは、正しく成熟している、それを水平的に展開すべきである。換言すると、モデルチェンジ前のものは、習熟しているということ、その内在しているものを捨てる手はない。これは年寄りの僻みかも。



地御前地区自治会
副会長兼
町内会事業部長
山野 雄三

明けましておめでとうございます。皆様には清々しく新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

私は今年で町内会事業部長を仰せつから3年目を迎えます。

寅は十二支の3番目で「子年は新しい命が種の中で芽生え始め。丑年には種の中で育つが、まだ伸びることができない。寅年は春が来て根や茎が生じ



地御前地区自治会
会計
中田 秀郎

地域の活動は楽しい。ここは遊びのワンダーランドでした。

たとえば学校は、勉める強いとはまったくの無縁で、誰とどこで何をして遊ぶかだけの毎日。その上にお祭りはある、とんどのある。お葬式だって楽しかった。帳場が立って、炊き出しをして、各々に役割があつて、大変だけど賑やかで楽しそうでした。それが大往生ならなおさら。家の中で賑やかでした。

そんな子供も大学や就職のために十年近く離れた後、戻り住むことになりました。地域の活動は、この遊園地の入場料でアトラクションだと思つていました。働いている間は運動会に参加する程度でした。

だからある日、中学校時代の先輩からお声掛けいただいたときには、ふたつ返事でお応えしました。ああ、これが入場料が払えるぞと。

でも、この入場料は安い。できる範囲で良いのですから。そしてそのうち、地御前があれば、デイズニードランドなんて要らないと思えたら最高です。



て成長する時期、草木が伸び始める状態」だとされています。

町内会事業部においてはコロナ禍にあつて、新たな事業展開が出来ていない状況ではありますが、本年も所期の目的である「町内会及び市行政等との連絡調整に努めると共に、町内会活動への支援等をもって、町内会並びに地御前地区自治会の円滑な事業運営を図ってまいりたい」と考えておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



地御前地区自治会
副会長
地御前郷土文化
保全会会長
美川 忍

私たちは地域の文化の継承、文化財の保護を目的として活動しています。

自治会、長寿会他各団体の協力のもと「とんど」「流鏑馬」「盆踊り」「秋祭り」など祭りごとをしています。又、月一回市民センターで民謡・三味線・笛・太鼓からなる伝承講座を開いています。初心者の方もおられます。お祭りごとに興味がある方は、一緒にやりませんか。参加される方、お待ちしております。よろしく申し上げます。



地御前地区自治会
文化事業部長
勝谷 祐司

1.自治会活動に
関わるようになったきっかけ。

近所の方、また私の父親が文化事業部に参加しており、私が入部する前父親の「どんぐりクラブ」の竹とんぼや水鉄砲を作る姿や、瓢箪を育成する姿を見ておりました。定年を控えた頃、近所の重鎮の方からの誘いを受け文化事業部に入部しました。

2.自治会活動で「いいな」と
感じているところ。よいところ。

文化事業部は主に地御前市民センター主催事業の「どんぐりクラブ」で昔の遊び・物作りの講師として支援を行っています。今の子供が経験したことのない、竹とんぼ、凧、水鉄砲作り等を2年生、6年生を対象に年間10回活動していますが、教えたことに一生懸命取り組んでくれる姿、子供たちとふれあえる時間はとても楽しく、有意義であり、毎年参加される子供たちもおり再会するのも楽しみです。

また、今まで仕事にかまけて地御前のことをよく知らなかった私は、自治会を通じ地御前の方とふれあえる、ひとつの輪の中に入れた嬉しさがあります。

3.自治会活動を通じて実現したいこと
社会の変化によってニーズも変わり、これから高齢の方が増え地域の繋がりが希薄になると言われています



地御前地区自治会
副会長
山広 道雄

地御前地区自治会役員をするにあたって私は、4つの事を心がけています。

1. 責任を持つ

「人に頼まれて仕方なく役員になった」しかし、引き受けたからには、委ねられた仕事は責任を持ってやり遂げる。

2. 相手の考えを尊重する

十人いれば十通りの考えがありません。自分の考えが全てという考えは、間違つた結論を出しかねません。相手の話を尊重します。

3. 地区みんなのことを考える

役員はみんなの代表、活動内容を役員だけで決めたり、「前例どおり」ではなく地区の方が何を求めているのかを考え、それを取り入れて行きます。

4. プライバシーを守る

役員になると、個人的な事柄(プライベート)を知る機会がふえてきます。個人的なことは絶対に口外しないようにします。



地御前地区自治会
総務部長
向 佳

振り返ると長きにわたり自治会にはお世話になっていきます。

が、繋がりを大切にふれあえる時間を保つために積極的な挨拶笑顔の声かけを行って行きたい。

4.自治会活動で記憶に残る思い出や経緯
文化事業部に入部し4年、部長になつて2年目の私ですが、どんぐりクラブの事業の中に「漁民の森づくり」と言うものがあります。私は今年初めて参加をしました。漁民の森づくりと言うのは山に木を植え、その栄養分を海に送り、海を豊かにすると言うプロジェクトです。今、地球を取り巻く環境は温暖化による気候変動、海洋へのプラスチックの流失などによって、地球は破滅的な道を進んでいます。

もう後戻りは出来ないと言われているこの地球、「漁民の森づくり」はこの環境問題について考えさせられるものでした。地球を破壊しているのは我々人間です。皆さんもこの大切な地球について、一考されることを願つてやみません。

5.地御前への思いなど
私の子供の頃、地御前の街中には、魚屋さん、肉屋さん、パン屋さん、呉服屋さん等沢山の商店があり賑やかな街並みでした。また秋祭りの俵もみ、夏の盆踊りなど沢山の人が賑わい地御前の人の絆を感じるものでした。

時代の流れと共に街並みは変わり、今はその面影もありませんが、地御前の文化を伝承し、絶やすことなく次世代の人に繋いで行かなくてはならない。

そのお手伝いが少しでも出来ればと思います。

他の事業部は次号に掲載します。